

込まれたし

東京市麴町區富士見町五ノ一六

川村信雄方 紫紅畫會假事務所

宇都宮光風畫會設立並に展覽會報告

畫會を設立しようと同好の士數名と話しあつたのも一再ではなかつた、處が期の熟したのか明治四十二年十月宇都宮光風畫會といふものが出來た。

本會は斯道の發達を期し兼て美術の普及趣味の向上を計るの目的であつて、其目的を達せんが爲め毎年一回展覽會を開き隔月批評會及寫生會を行ひ又別に實技會が設けてあつて毎週三回夜間主として素描の研究をして居る。

今年四月十五、六、七日の花の盛りに臨時展覽會を開催した處當地にては始めての事であるにもかゝらず非常な盛會で一日の入場者七百を數へた位みであつた。

第二回展覽會は同年十月十五、六、七日の三日間當市旭日館で開いた、出品總數九十二點の内八點は日本畫にて彫刻七點油繪三十八點水彩三十九點で、十四日午後四時頃より會場の裝飾並に陳列に執りかゝつたが何分夜の事とて不便は一通りではなかつた、陳列を終つたのは夜の一時頃である。

出品は油繪廿五號を最大とし、半切十二號四つ切八號九つ切等で敢て畫面の大きな所謂大作といふものはないが、何れも忠實な苦心の餘になつたものゝみて、一枚として輕薄なものはない

つた。

陳列の方法も前回よりは稍や整頓した様である。

三日間の入場者二千餘名で、十六日の如きは立錐の餘地もない盛況であつた。

第三回は四十四年十月開催の豫定、會員目下貳拾七名で。事務所と實技會場は宇都宮尋常高等小學校内に設けてある。以上明治四十三年十二月(光風畫會幹事報)

三越の廣告圖案募集

三越吳服店にては、四十四年春季賣出し廣告のエビラの圖案を募集する由にて、様式は日本畫油繪水彩畫、何でもよく直に印刷に付し得るもの、大きは幅二尺五寸縱三尺五寸、なるべく美人畫にて人の注意を惹き易きもの、賞金は一等千圓、以下五等迄あり、期限は二月二十日迄、詳細は日本橋駿河町の同店へ問合せられよ。

日本水彩畫會新會友

徳島縣名西郡入田村

木村 二郎

兵庫縣龍野町小川町

長谷川 勘次

『みづゑ』未着のため再送致せし場合に、別に料金は申受けず候へども、當方發送のせつは、再調べ迄して御送致すわけ故、未着のせつはよく御取調べの上御申出下され度候